

# 夜明け

キリストの御臨在の使徒



# ドーンマガジン

2025年11月号

## 目次

<b>特集記事</b> .....	<b>2</b>
戦争と暴力に対する神の視点 .....	2
<b>聖書研究</b> .....	<b>22</b>
エレミヤの救出 .....	22
エルサレムの陥落.....	26
エゼキエルのしるし .....	29
民の警告.....	33
エゼキエルが見た神の国 .....	36
<b>クリスチャンの生活と教義</b> .....	<b>39</b>
勇気を持ちなさい.....	39

聖書に従いなさい

## 戦争と暴力に対する神の視点

**「主は地の果てまで戦争をやめさせ、弓を碎き、槍を断ち、戦車を火で焼かれる。**

**詩篇46篇9節**

私たちは21世紀に入った。世界情勢は急速に悪化している。私たちが信頼してきた人々、私たちが知り、享受してきたもの、さらには当たり前のように享受してきたものが消え去ろうとしている。今日、世界の多くの人々は、常に恐怖の中で暮らしている。世界の緊張がかつてないほど高まっていることを、私たちは目の当たりにしている。紛争、戦争、テロ行為が見出しや報道を埋め尽くしている。世界は熱狂に巻き込まれ、多くの人々が自分たちの存在そのものを恐れている。地球上の善と悪の勢力間の闘争が進行中なのだ。暴力には暴力をと、武器を求める声が上がっている。何が何でも「戦いに参加せよ」という大きな圧力が個人にかかっている。

人類は一般的に、神に助けを求めるのではなく、世界に平和をもたらすための独自の方法に頼っている

。このような状況の中で、神の子は多くの重要な決断を迫られている。暴力、戦争、殺戮に関して、聖書は何を教えているのか。戦争や暴力に反対する根拠として、聖書をどのように用いることができるのか。この後の論考が、これらの重要な疑問に対する答えを読者に示す一助となれば幸いである。

## 旧約聖書における神の記述

民数記11:10,33にあるように、「主の怒り」や「主の怒り」といった戦争的な言葉で、神は聖書の中でしばしば描写されている。天の父は"焼き尽くす火"のようであり、"生ける神の手に落ちることは恐るべきことである"。(申命記4:24、ヘブル10:31) 。"わたしには復讐と報いがある" (申命記32:35)。(申命記32:35)。主は"嫉妬深い神"であり、"戦いの人"であり、定められた時に国々を裁くために立ち上がる。出エジプト20:5; 15:3

## イスラエルの戦争の男たち

イスラエル民族に対する神の扱いにおいて、イスラエル民族は軍隊によって数を数えるように指示されたことがわかる。「主はシナイの荒野で、会堂の幕屋でモーセに語られた、...彼らがエジプトの国から出た後、こう言われた。『イスラエルの子らのす

すべての会衆を、その家ごとに、その先祖の家ごとに、その名の数とともに、その国勢調査によって、すべての男子をとりなさい。民数記1:1-3

イスラエルの民は、約束の地を手に入れようと奮闘するとき、しばしば戦いの男たちに率いられた。主の軍勢の隊長」であったヨシュアは、エリコを滅ぼす方法を天使から教えられた。(ヨシュア記5:14、6:2-5)。トランペットが吹き鳴らされ、神の介入があり、町の城壁は "平らに崩れ落ち"、"完全に破壊された"。ヨシュア記6:20,21

神はその民に戦い方を教えられた。私の手に戦いを、私の指に戦いを教えてくださる：わたしの善、わたしの砦、わたしの高い塔、わたしの救い主、わたしの盾、わたしの信頼する方、わたしの下にわたしの民を従わせる方。"と。詩篇144:1,2

## 神は民のために戦われる

エジプト王パロとその軍勢（馬と戦車）に追われていた時、神はその民のために戦われた。「パロが近づいたとき、イスラエルの子らが目を上げると、見よ、エジプト人が彼らの後を行進していた。...モーセは民に言った、「恐れるな、立ち止まり、主が

今日、あなたがたに示される救いを見よ。主はあなたがたのために戦われる。(出エジプト記14:10-14)。海の水は神の力によって裂け、イスラエルの軍勢は救い出され、エジプトの軍勢は滅ぼされた。

主はモーセに語られた、『イスラエルの子らをミデヤン人から討て』と言われた。そして彼らはミデヤンの王たちを殺した。"民数記31:1-8

## 「あらゆる目的に適った時

旧約聖書のもう一つの聖句は、伝道者の書3:1,3,8にある。"天の下のすべてのものには時があり、すべての目的には時がある。多くの人々がこの聖句を、殺戮や戦争を正当化するために用いてきた。しかし、この聖句をより詳しく調べてみると、ソロモンが過去の多くの経験や観察の結果として書いたものであることがわかる。ソロモンは社会的な見地から主張しているのだ。ソロモンは、人々があらゆることに懸命に取り組んでいるのを見て、賢明にもこう尋ねている。私は、神が人の子らに与えられた労苦を見た。

ソロモンは伝道者の書での議論をこう締めくくっている：神を畏れ、その戒めを守りなさい。神を畏れ

、その戒めを守ること、これが人間のすべての義務である。伝道者の書12:13,14

## 愛の神

聖書が語っているように、神が愛の神であるなら、イスラエルの子らに対する敵の「滅ぼし尽くせ」という命令をどう理解すればいいのだろうか？(1ヨハネ4:8,16; 申命記12:2; 20:17)。イスラエル民族が神の契約の民であったことを忘れてはならない："わたしは、地のすべての家族の中で、あなただけを知っている。"アモス3:2

イスラエルの子らが神に選ばれた民であったことは、聖書の中ではっきりと教えられている。預言者エレミヤの言葉に注目しよう：「彼らがわたしの民となり、名となり、賛美と栄光となるためである。わたしは "イスラエルの全家族の神となり、彼らはわたしの民となる"。(エレミヤ13:11; 31:1)。イスラエル12部族の父ヤコブに対して、神はこう言われた。"あなたとあなたの子孫のうちに、地のすべての家族が祝福される"。創世記28:14

カナンのは、何世紀も前にアブラハムの「子孫」、つまりイスラエルに約束されていた。(創世記

11:31; 12:5-7)。しかし、ヨシュアの指導の下、イスラエル人が正当な相続者として到着する前に、他の民族がその地に定住していた。イスラエルがカナンの約束の地を所有するようになったとき、その地にはひどい状況が存在していた。その地を占領していたペリシテ人、アモリ人、その他の人々は非常に墮落しており、あらゆる形の偶像礼拝に従事し、彼らの偽りの神々と宗教に関連して人身御供を捧げていた。(申命記18:9-14)。彼らの邪悪さと墮落がこのようなレベルに達したので、神はその知恵と正義において、彼らを滅ぼし、神の指示の下、より高度な文明に到達する民をその地に置くことが最善であると考えられた。

こうして、神はイスラエルの民にカナンを征服するよう指示した。それは神の許可と指示なしになされたことではない。約束の地に入る前に、主はイスラエルの民に律法の体系を定めておられた。彼らはその掟に背けば罰せられることを理解していた。その掟のひとつが、「殺してはならない」というものだった(出エジプト記20:13)。(出エジプト記20:13)。イスラエルの隣人たちは絶えず彼らに戦争を仕掛けてきたが、イスラエルが神に従うなら、神は彼らを助けてくださった。しかし、もし彼らが神に従

わないなら、神は彼らの敵に成功させるであろう。  
レビ記26:3,6-8,14,17

## 一時的な状況

旧約聖書の後半、神は預言者たちを通して、現在の悪、憎しみ、戦争、貧困の時代は一時的な状況であることを明らかにされた。神の計画は最終的に、すべての戦争、憎しみ、絶望、貧困をなくす。これは、主の王国（ ）が築かれるときに起こる。預言者イザヤを通して、神はこの時についてこう言われた：「国民は国民に対して剣を振り上げることはなく、もはや戦争を学ぶこともない。「彼らは、わたしの聖なる山のすべてにおいて、傷つけることも滅ぼすこともない。イザヤ2:4; 11:9

## 新約聖書の戦争観

新約聖書における神の教えを考えてみよう。天の父は今、イスラエルという国に対してこれまでとは異なる対応をとっており、そのすべては御子イエスから始まっている。そのすべては、御子イエスから始まるのである。(ヨハネ1:1)。この章の後半で、ヨハネはこう書いている。"みことばは肉となって、私たちの間に住まわれ、私たちはその栄光を見た。

(14節)。「彼は世にあって、世は彼によって造られたが、世は彼を知らなかった。彼は世におられ、世は彼によって造られたが、世は彼を知らなかった。(10,11節)。自分のもの "とはイスラエル民族のことである。聖句にある "彼は軽蔑され、人々から拒まれた "のとおりに、彼は彼らに拒まれたのである。イザヤ書53章3節

ピラトが主の裁判に集まったユダヤ人たちに尋ねた。彼らはみな、彼を十字架につけよと言った。(マタイ27:22)。マタイによる福音書27章22節にあるように、ピラトは彼に何の落ち度もないと判断し、この問題から手を洗った。そして、民衆はみな答えて言った、"彼の血は、わたしたちの上にも、わたしたちの子らの上にもあるように"。マタイによる福音書27章25節

イエスの宣教を通して、イエスはイスラエルを助けたいと切望された。「預言者たちを殺し、あなたに遣わされた者たちを石で打つエルサレム、エルサレムよ、雌鳥がその子をその翼の下に集めるように、わたしは何度あなたの子らを集めようとしたことか！見よ、あなたがたの家は荒れ果てたままである」。(ルカ13:34,35)。神の独り子を拒絶したために、イスラエルは長い間求めていたものを得ることができなかった。彼らは、神の導きの下で継続的な祝

福と繁栄を得ることを望んでいたのだ。「では、どうなのか。今日に至るまで、神は彼らにまどろみの霊を与え、目は見させず、耳は聞かせなかった。」  
ローマ11:7,8

## 私たちを教える実例

私たちは今、再び聖書を使って、旧約聖書における神とイスラエルとの関係の目的について言及する。

「兄弟たち、わたしは、あなたがたに、わたしたちの先祖（イスラエル人）が皆、雲の下におり、皆、海を通ったことを、知らないでいてもらいたくないのです。1コリント10:1,6

この記録から、私たちは警告を受け、イスラエルの失敗から学ぶ機会を得て、神に仕えるために最善を尽くすことができる。自然のイスラエルは、アブラハムに約束された "あなたのうちにあって、地のすべての家族は祝福される"（創世記12:3）という約束の一部を無条件で受け継ぐことはなかった。（創世記12:3）。神がイスラエルと契約を結んだとき、彼らが律法を守るなら、永遠の命を得ることができるという理解だった。そうすれば、アブラハムとの約束を受け継ぐことができ、"地のすべての家族"を祝福する特権が与えられる。

## 神の約束を受け継ぐ者

使徒ペテロの「約束は、あなたがたに、また、あなたがたの子孫にある」という言葉は、主のしもべアブラハムの子孫としてのイスラエルとの契約を含む、主がイスラエルと交わされたすべての出来事と完全に調和している。(使徒2:39)。パウロが "私たちの十二部族は、昼も夜も神に仕え、来ることを望んでいます。"(使徒26:7)と言ったように、彼らはイエスの時代( )にもこの希望を持っていたのです。(使徒26:7)。イスラエルが国家としてアブラハムの約束を受け継ぐに値しないことが証明されたとき、象徴的に言えば、イスラエルは断絶され、その代わりに異邦人が接ぎ木される機会が与えられた。異邦人たちは、今や個人として、「オリーブの木の根と太さ」、すなわちアブラハムの約束にあずかることができるのである。ローマ11:17

その時から、ユダヤ人であれ異邦人であれ、キリストを受け入れた者だけが、アブラハムの霊的種子の一員として、「約束に従った相続人」とされたのである。(ガラテヤ3:29)。「建てる者たち(国としてのイスラエル)が拒んだ石(イエス)は、隅のかしらとなった。マタイ21:42,43

イスラエルは他国の祝福に用いられる準備が整って  
いなかったのので、神との契約の下にあった地位はな  
くなり、「祭司の王国、聖なる国民」という約束も  
なくなった。(出エジプト記19:6)。出エジプト記  
19:6) それは、霊的なイスラエル、すなわち「王家  
の祭司職、聖なる国民に与えられた」のである。(  
第1ペテロ2:9)。この民族( )は、他のすべての  
民族とは別個のものであり、神によって地上のすべ  
ての民族から集められ、"御名のための民"であると  
言われている。使徒15:14

## 暴力と戦争の拒絶

私たちの主イエス・キリストは、新約聖書の教えを  
変える鍵であることは間違いない。イエスは、世に  
知られ受け入れられるようになった暴力と戦争の概  
念を否定された。その教えと模範によって、イエス  
はより高い基準を私たちに示した。「わたしがあな  
たがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合  
いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あ  
なたがたも互いに愛し合うことである。(ヨハネ  
13:34,35)。これは、神との契約のもとでユダヤ人  
に与えられたものより高い戒め、高い律法である。  
キリストによって与えられた律法は、キリスト者の  
契約の律法であり、愛の律法である。キリストの学

校に入り、霊的イスラエルの一員となることを望んでいるすべての人に与えられている。イエスは愛の戒めをこのように要約された：「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。マタイ 22:37,39

罪の結果としての暴力が、今日の世界で横行している。暴力はさまざまな形で存在し、ほとんどすべての文化に何らかの形で関与している。罪の生みの親であるサタンは、"ほえたける獅子のように、  
・ 食い尽くす者を求めて "この世をさまよっている。(第1ペテロ5:8)。彼は "この世の神 "であり、"信じない者の心を盲目にした" (2コリント4:8)。(第2コリント4:4)。サタンの影響により、現代社会には暴力が蔓延している。

今日、私たちは家庭内、隣人同士、学校、教会、職場、さらには見知らぬ人々の間でも暴力を目にする。これらすべてはイエスの教えに反している。イエスは暴力と、争いを解決するための個人的な力の行使を否定された。たとえば、ヨハネによる福音書18章10節、11節で、イエスはペテロが大祭司のしもべに対して剣を抜き、そのしもべに怪我を負わせた

ことを咎められた。イエスはペテロに「剣を鞘に納めなさい」と言われた。

弟子たちが主のために武力や暴力を用いたという話は二度と聞かない。イエスは「天使の十二軍団」を召集することもできたが、そうはされなかった（マタイ26:53）。（マタイ26:53）。イエスは、自分の個人的な幸福のために神の力を使おうとはされなかった。イエスは悩みから解放されるために祈ることはなく、犠牲の一部として喜んで耐えた。キリストに従う者もまた、同じことをすべきなのだ。「キリスト・イエスがあなたがたのうちに持つておられたこの心を、あなたがたのうちにも持つていなさい。ピリピ2:5

## 敵に対する新しい態度

主はまた、敵に対する新しい態度についても説かれた。「あなたがたに言う、敵を愛し、あなたがたを呪っている者を祝福し、あなたがたを憎んでいる者に善を行ない、あなたがたを侮り、迫害している者のために祈りなさい。（マタイ5:44）。マタイ5:44）。私たちは最初、これは生きるための高い基準だと言うかもしれない。このような愛は、隣人を愛することををはるかに超えている。自分を愛してくれる

人を愛するのは簡単だと言われてきた。しかし、敵を愛するには、敵でさえも私たちの心に悪意を呼び起こすことができないほどの愛に満ちた心の状態が必要である。報復行為や憎悪が入り込む余地はない。

これは悪や不正を認めるという意味ではなく、それに加担しないという意味である。私たちは、弱者や無力な者への抑圧に反対する。今日の世界の多くの人々の考え方は、自己を守るために他者に悪を行うことを正当化することである。私たちは「悪を憎み、善を愛す」べきであるが、敵であっても悪に報いてはならない。(アモス5:15)。神の目の前で罪を犯し、悪を行う者には、その報いがあることを覚えておこう。1コリント3:8

## 生活の原則

私たちの主イエスは、同情、柔和、憐れみ、純潔、平和を作ることの特徴とする生き方の原則を教えられた。「悲しむ者は幸いである：・・・柔和な者は幸いである：・・・憐れみ深い者は幸いである：・・・心の清い者は幸いである：・・・平和をつくる者は幸いである。(マタイ5:4-9)。主は山上の説教の中で、弟子たち、ひいては私たちを指導するためにこの言葉を語られた。主は私たちが困難な状況に

ある人々に同情し、柔和と自制を実践し、他人を憐れみ、怒りと悪意のない純粋な心を持ち、常に平和をつくり出す者となることを望んでおられる。私たちは常にこれらのことを完璧にできるわけではないが、完全で純粋な意思を持ちたい。主の民は役に立つ者である。「ですから、私たちには機会があるのですから、すべての人に善を行ないましょう。ガラテヤ6:10

神に対する心の清さは、平和的に生き、他の人々の平和を促進する努力に現れる。使徒パウロはこう書いている。"あなたがたのうちにある限り、すべての人と平和に生きなさい。"(ローマ12:18)(ローマ12:18)。このことは、たとえ平和が私たちに返ってこないとしても、私たちが今生きているこの時代に特に必要なことである。

正義の敵は、"彼らの行いが悪であったので、光よりもむしろ闇"を愛する。(ヨハネ3:19)。主が求めておられるのは、このような人たちではなく、義の原則に忠実で、迫害されても敵にさえそれを行行使する人たちなのだ。「人々があなたがたをののしり、迫害し、また、わたしのために、あなたがたに対してあらゆる悪口を言うとき、あなたがたは幸いである。天にあるあなたがたの報いは大きいからである

。" (マタイ5:11,12)。(マタイ5:11,12)。使徒ペテロはまた、こうも書いている。"クリスチャンとして苦しむ者があれば、その人は恥じることなく、このために神をほめたたえなさい。(第1ペテロ4:16)。私たちの主は、私たちに個人的な保証を与えてくださる：「わたしは世に打ち勝ったのだ。ヨハネ16:33

## クリスチャンの責任

私たちは、神の掟に反しない限り、人間の掟に従わなければならない。しかし、神の掟と矛盾する場合は、クリスチャンは神の掟に従わなければなりません。このことについて、私たちに与えられている戒めに注目してください。「あなたがたは、選ばれた世代であり、王家の祭司団であり、聖なる国民であり、特別な民である。あなたがたは、、あなたがたを闇からその驚くべき光の中に召してくださった方の賛美を表すべきである。.....愛する者たちよ、見知らぬ巡礼者であるあなたがたに勧めますが、魂と戦う肉の欲望を避けなさい。(1ペテロ2:9,11)。”  
私たちは、人よりも神に従うべきです。”使徒5:29

私たちは、天の御父が御心に従うことを非常に重要なこととしておられることを知っている。このことは、イスラエル民族に関する多くの教訓によって示

されている。イエスが教えてくださった重要な原則はこうである：「それゆえ、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。(マタイ22:21)」。さらにこうも言われている：「主のために、人のすべてのために従いなさい。(第1ペテロ2:13)。「貢物は貢物に、習慣は習慣に、.....栄誉は栄誉に.....」(ローマ13:7)。(ローマ13:7)。これらの原則は、私たちの訓練された良心と神の法律に違反する場合を除いて、すべて適用される。

天の御父は、ご自分の計画と目的に従って、この問題のある現在の世界のすべてを解決しておられる。天の御父は、私たちが御子によって啓示された教えに従ってどのように生きているかを、特に見ておられる。今の時代の激しい嵐は、"すべての人の働きがどのようなものであるかを試す"。(1 コリント3:13)。それは、私たちが生きている間にどのような品性を身につけたかを明らかにする。私たちの信仰は、"金、銀、貴石"として描かれている神の尊い約束の上に築かれるべきである。火による試練に耐えられないような他の材料で、不適切な建て方をしてはならない。使徒は、「木、干し草、切り株」として描かれている人間の理論、方法、伝統に従っ

て建てられたものは、すべて滅ぼされると教えている。

天の父は、すべての国々が、自分たちが世界のすべての問題を解決できると考えるように、自分たちを欺くことを許しておられる。私たちは、平和が長く続くことはなく、新たな紛争が突然起こることを見てきた。このような出来事は、"平和の君"である御子キリスト・イエスが治める永遠の平和の王国のために、神が人類の世界を準備させるために許されたことなのだ。(イザヤ9:6,7)。「御国を来たらせたまえ。みこころが地において行われますように」とイエスは私たちに祈るように教えられた。マタイによる福音書6章10節

## 結びの言葉

旧約聖書のイスラエル体験において、神はアブラハム、イサク、ヤコブに与えられた最初の約束に関するある目的を達成するために、戦争を許された。これらの紛争のほとんどは、イスラエルの人々に何世紀も前に約束されていた土地に関連していたが、異教徒や邪悪な国々に占領されていた。このような戦争や紛争は神によって許可されたものであり、人間や地上の政府によって許可されたものではなかった。

対照的に、新約聖書では、イスラエルがかつて経験したことは、神に関する限り、その目的を果たした。その目的とは、これらの困難な経験を通して学んだ教訓が、彼らを平和の君であるキリストのもとに導くための「校長」としての役割を果たすことであった。ガラテヤ**3:24**

イエスは暴力や戦争の概念を否定された。イエスは模範を示し、"心を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい"という戒めを定め、"隣人を自分のように愛しなさい"と教えられた。(マタイ**22:37,39**)。敵に対するこの新しい態度は、武力、暴力、殺人を否定する。パウロはこう語る。"すべての人との平和と、聖さとに従いなさい。へブル**12:14**

まもなく、冒頭の聖句が成就する：「主は地の果てまで戦争をやめさせ、弓を砕き、槍を寸断し、戦車を火で焼かれる。(詩篇**46:9**)。神の御言葉はさらにこう約束している：「しかし、あなたはその城壁を救いと呼び、その門を賛美と呼ぶ」(イザヤ**60:18**)。(イザヤ**60:18**)。戦争やその他の暴力行為によって殺された者はみな、死者の中からよみがえる。(ヨハネ**5:28,29**)。すべての人々は永遠の平和を知り、回復された完全な地球で永遠に調和して生きる機会を与えられる。そのような栄光の結末は

、"世が始まって以来、神がそのすべての聖なる預  
言者たちの口によって語られた万物 "の回復の頂点  
となる。使徒3:21

## 聖書研究

11月2日のレッスン

# エレミヤの救出

**キー・ヴァース王はエチオピアのエベデ=メレクに命じて言った、"ここから三十人を連れて来て、預言者エレミヤが死なないうちに、地下牢から救い出さなさい"。**

**エレミヤ38:10**

**選択聖句**

**エレミヤ38:1-28**

人類の歴史を通して神のしもべの中で、預言者エレミヤは特別な存在であった。彼がまだ若いうちに預言者として召された驚くべき性質を考えてみよう。エレミヤはその時のことをこう記している：わたしは胎内であなたを形造る前からあなたを知っていた。そこで私は言った：ああ、主なる神よ！見よ、わたしは語るができない。しかし、主は私に言われた：わたしがあなたがたを遣わすすべての者のもとに行き、わたし（ ）が命じることは何でも、あ

あなたがたは語らなければならない。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからである。”と主は言われる。エレミヤ1:4-8

若きエレミヤが人生を変えるほどの衝撃を受けたことは想像に難くない。結局のところ、神は彼に直接語られたのだ！さらに、自分が胎内に生まれる前から神に知られていたことが明かされたのだ。さらに、エレミヤが生まれる前から神によって聖別され、すべての国の預言者となるように定められていたことにエレミヤは驚いたのだろう。おそらくエレミヤはこのメッセージによろめいただろう。神の御心はどのようにして成し遂げられるのだろうか、いや、成し遂げることができるのだろうかと思ったかもしれない。しかし、神がエレミヤに力を与えたとき、すべての疑問は取り除かれたようだ。主は御手を差し伸べて、わたしの口に触れられた：見よ、わたしはわたしの言葉をあなたの口に置いた。見よ、わたしはわたしの言葉をあなたの口に置いた。わたしは今日、あなたを国々の上に、王国の上に置いた。(9、10節)。これらの特別な約束によって力を与えられたエレミヤは、イスラエル、ユダ、そして諸国民に対して、恐れずに忠実に神の言葉を宣言する務めを始めた。

ユダ最後の王ゼデキヤの時代、エレミヤの預言はユダの指導者たちによって拒絶された。預言者は大胆にも、ゼデキヤとその統治者たちに、神が彼らの治世の終わりを。エルサレムは滅ぼされる。彼らが生き残る唯一のチャンスは、バビロンのエルサレム侵略と征服が、彼らのかたくなな不従順に対する神の罰であることを受け入れることだった。神の御心に従えば、彼らの命は助かる。それどころか、ゼデキヤの統治者たちは、エレミヤを廃墟と化した貯水槽に幽閉するよう主張した。彼らは、エレミヤは民の意志を弱めている、反逆行為だと言った。エレミヤが入れられた貯水槽は、泥でいっぱいだった（エレミヤ38:1-6）。私たちは、エレミヤが経験した信仰の内的葛藤を想像することができる。彼はそこで死ぬのだろうか？神は彼を見捨てたのだろうか？

おそらくエレミヤは詩篇40篇を思い起こしたのだろう。「主はわたしに立ち帰られ、わたしの叫びを聞かれた。主はまた、わたしを恐ろしい穴から、泥の土から引き上げ、わたしの足を岩の上に置き、わたしの歩みを堅くされた。詩篇40:1,2

私たちは、神がご自分の民を「泥土」のような状況から救い出し続けてくださると信じている。エレミヤの忠実と信頼の模範は、主の民を鼓舞し続けてい

る。「神は私たちの避け所であり、力である。それゆえ、私たちは恐れない。詩篇46:1,2

## エルサレムの陥落

キー・ヴァース「主の怒りのゆえに、エルサレムとユダにこのようなことが起こり、ついに主は彼らを御前から追い出された。そしてゼデキヤはバビロンの王に反逆した。”  
列王記下24:20

選ばれた聖句  
列王記下24:18-20; 25:1-21

「過去を思い出せない者は、過去を繰り返す運命にある。(ジョージ・サンタヤーナ『理性の生涯』1905年)。古代イスラエルの人々は、この定説の餌食になった。何人かの善良な王、しかし多くの悪しき王の治世を経て、イスラエルとユダは彼らに対する主の憐れみと忍耐を使い果たした。彼らの過去は彼らの現在に反映されず、その結果、彼らは断罪された。イスラエル十部族王国の政体は、ゼデキヤが敗北する約135年前に、アッシリア王シャルマネセルによって消滅していた。(列王記下18:9-12)。ゼデキヤは歴史から学ぶよりも、神の裁きに逆らうことを選んだ。

預言者エレミヤは、来るべき裁きとユダがどのように対応すべきかを明確に示した。「この町にとどまる者は、剣と飢饉と疫病によって死ぬ。主はこう言われる：この町は必ずバビロンの王の軍勢の手に渡され、その軍勢がこれを奪うであろう。」と主は仰せられる。(エレミヤ38:2-3) 言い換えれば、「神の力強い御手の下にへりくだれ。カルデア人に屈服し、この神罰を受け入れよ。抵抗すれば、病気、飢餓、暴力で必ず死ぬ。"謙遜を拒み、傲慢を受け入れたゼデキヤは、反抗の道を選んだ。彼は神の力を信じず、信頼もしなかった。

#### 列王記下24:18-20

私たちはこの記述から教訓を得、それを私たちのクリスチャン生活に生かすことができる。第一に、神に従いなさい。神のみこころを行うための「他の選択肢」を求めてはならない。クリスチャンには何もないのだ。「神は高ぶる者を拒み、へりくだる者に恵みをお与えになる。神がやがてあなたがたを高くしてくださるように、あなたがたは神の力ある御手のもとにへりくだりなさい。第一ペテロ5:5-7

神の御心は、私たちの地上の欲望にとって不愉快なものだろうか。私の子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない、主の矯正を憎んではならない。わが子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない。(箴言

3:11-12)。使徒パウロは、ソロモンの忠告を見事に洞察している。私たちは、霊の父に服従し、生きる方がずっと容易ではないか。彼らは実に数日の間、自分たちにとって最善と思われるように私たちを懲らしめたが、それは私たちの益となるためであり、**私たちが主の聖さにあずかる者となるためであった。**"へブル12:9-10

もしゼデキヤ王が、私たちが得たような理解力を持っていたなら、主に従うことを選び、生きたかもしれない。神からの懲らしめは、一般的に懲罰的なものだと思われている。ある程度はそうである。しかし、神の懲らしめは私たちの益となるものであるということを、もっと大きな教訓と認識すべきなのだ。それは神性における成長を促進する。神は私たちを助けるために私たちが正される。ユダが従っていれば、エルサレムは滅ぼされたにもかかわらず、彼らは生きていただろう。クリスチャンにとって、神の懲らしめを受け入れることは、**"神の聖さにあずかる者"**となるための益なのだ。

## エゼキエルのしるし

キー・ヴァース「このように、エゼキエルはあなたがたへのしるしである。彼がしたすべてのことに従って、あなたがたもしなければならない。

エゼキエル24:24

選ばれた聖句

エゼキエル24:15-27

エゼキエルのしるしは痛々しいほど深い。主が "あなたの目の望み" と言われた彼の妻が、"一撃で" 急死しようとしていたのだ。喪失感と悲しみはさらに深まり、主はエゼキエルに、悲しみを公にしてはならない、と命じられた。「あなたは嘆いてはならず、泣いてもならず、涙を流してはならない。静かにため息をつき、死者を悼んではならない。頭にターバンを巻き、足にサンダルを履き、唇を覆ってはならず、人の悲しみのパンを食べてはならない。それで、私は朝、人々に語った。夕方、私の妻は死んだ。"翌朝、私は命じられたとおりにした。エゼキエル24:16-18

エゼキエルがこの過酷な命令に耐えることができたのはなぜだろうか？従順と奉仕を特徴とする彼の神への生涯の献身が、根深い信仰を育んだのだろう。"たとえ主がわたしを殺されても、わたしは主を信じます。"とヨブが表現したような信仰である。ヨブ記13章15節

私たちは、神がエゼキエルの個人的な悲劇をイスラエルの国家的教訓に変えたとき、神の知恵が働いていたことを認識する。この二つの出来事はどのように関連していたのだろうか？それは "あなたの目の欲望 "である。エゼキエルにとって、それは妻だった。イスラエルにとって、それは国家政治の象徴であるソロモンの神殿だった。

イスラエル人は預言者の行動に好奇心を抱いたようだ。エゼキエルが妻を弔わなかったのは奇妙だったし、エゼキエルの行動にはしばしば神の意図と意味があることを知っていたからだ。彼らはそれについて尋ねた。人々は彼に言った。"あなたがそのようにふるまうことが、私たちにとって何を意味するのか、教えてくださいませんか。"エゼキエル 24:19

エゼキエルは彼らに答えた、「主からのメッセージが私に届いた。わたしは、あなたがたの安心と誇りの源であり、あなたがたの心が喜ぶ場所であるわたしの宮を汚す。ユダに残してきた息子や娘たちは剣で殺される。その時、あなたはエゼキエルがしたようにする。人前で嘆き悲しむことも、友が運んできた食べ物を食べて自分を慰めることもない。あなたがたの頭は覆われたままであり、サンダルは脱がされない。あなたがたは嘆くことも泣くこともなく、自分の罪のために衰え衰える。あなたがたは、自分たちの行ったすべての悪のために、自分たちの間でうめき悲しむであろう」 **20-23節**

神殿は破壊され、国家体制は解体され、イスラエルの民は捕囚となるか殺される。このように、エゼキエルは、キー・ヴァースで述べたように、「しるし」であった。災いは起こり、いくら悲しんでもそれを避けることはできなかった。イスラエルはバビロンに捕らえられた。イスラエルの民の良心は悲しみにさいなまれ、詩篇**137**篇にあるような美しい詩が生まれた。「バビロンの川のほとりで、私たちは座り、エルサレムを思って泣いた。私たちは琴をしまって、ポプラの木の枝にかけた。捕囚たちは私たちに歌を求めた。私たちを苦しめた者たちは、喜びの賛美歌を要求した：エルサレムの歌を歌え』と！し

かし、異教の地にいながら、どうして主の歌を歌うことができようか。エルサレムよ、もし私があなたを忘れるなら、私の右手は琴の弾き方を忘れよう。もしあなたを思い出せず、エルサレムを私の最大の喜びとしないなら、私の舌が口の天井に張り付くように。"(詩篇137:1-6)。エゼキエルのしるしから、痛切な思いが湧いてくる。

## 民の警告

キー・ヴァース「人の子よ：だから、あなたはわたしの口から言葉を聞き、わたしのために彼らに警告しなければならない。」

エゼキエル33:7

選ばれた聖句

エゼキエル33:7-20

エゼキエル書を斬新さというレンズを通して見る傾向がある。その結果、預言者が他の惑星からの訪問者との遭遇を記録しているとする本が書かれている。[これは本誌編集部の見解ではない] また、"ゴグ.....マゴグの....."と特定された侵略軍に関わる終末論的シナリオに興味を持つ者もいる。(エゼキエル 38:2)。その大群はイスラエルを攻撃し、ハルマゲドンの戦いを引き起こす。エゼキエル書の最後の章に進むと、新しい神殿の約束と、千年王国時代の栄光の到来が暗示されている。

これらの主題は聖書を学ぶ者にとって非常に興味深いものであるが、この魅力的な書物におけるもう一つのレベルの教え（ ）を心に留めておくとよいだ

ろう。その教えとは、責任を持つことである。常に警戒し、忠実である番人であれ。神の民の安全と霊的繁栄を見守りなさい。クリスチャンは、この点でエゼキエルを見習うのがよいだろう。私たちの行動によって、創世記4:9で提起された古くからの疑問、「私は兄弟の番人か？」という問いに「はい、そうです」と答えよう。

私たちのキー・バージョンは、エゼキエルが以前、主から見張り番を命じられたことを裏付ける。わたしが悪人に『あなたは必ず死ぬ』と言いながら、あなたがその悪人に何の警告も与えず、また、その命を救うために、悪人をその悪の道から戒める言葉を発しないとき、その悪人もその咎のうちに死ぬであろう。しかし、もしあなたが悪人に警告しても、その悪人がその悪から立ち直らず、その悪の道から立ち直らないなら、彼はその咎のうちに死ぬであろう。...それでも、もしあなたが正しい人に、正しい人は罪を犯してはならないと警告し、彼が罪を犯さないなら、彼は警告を受けたので必ず生きる。エゼキエル3:18-21

エゼキエル3:18-21 私たちは、他人の人生に干渉することを勧めません。それゆえ、キリストにある慰め、愛の慰め、御霊の交わり、愛と憐れみがある

なら、同じ志を持ち、同じ愛を持ち、心を一つにして、私の喜びを満たしなさい。何事も、利己的な野心やうぬぼれによってなされるのではなく、心を低くして、各自が自分よりも人を尊びなさい。あなたがたはそれぞれ、自分の利益だけでなく、他人の利益にも心を配りなさい。"ピリピ2:1-4

見張り番として行動する私たちは、聖書の枠に留意する。イエス・キリストは教会の長である。私たちは、神の評価において偉大な者になりたいと願う者は、仕える者になりなさいというイエスの教えに従おうとする、彼との共同労働者にすぎない。(マタイ23:11、ヨハネ13:14-16)。あなたがたのうちにいる神の群れを牧し、監督として仕えなさい。強制されたのではなく、進んで仕え、不正な利益のためではなく、熱心に仕えなさい。1ペテロ5:2,3

神は最終的に、イスラエルを牧するための言葉とビジョンをエゼキエルに与えられた。私たちがそうでありたい。主が家を建てなければ、建てる者は無駄な労苦をする。主が町を見守ってくださらなければ、見張りは無駄に立ちつくす」詩篇127:1。

## エゼキエルが見た神の国

キー・ヴァース「川の岸边のあちら側にもこちら側にも、食物になるあらゆる種類の木が生え、その葉は枯れず、その実は絶えることがない。その葉は枯れず、その実は絶えることがない。その水は聖所から流れ出るので、毎月実を結ぶ。その実は食物となり、その葉は葉となる。」

エゼキエル47:12

選ばれた聖句

エゼキエル47:1-12

私たちが何世紀にもわたって祈ってきたことの成就である：「御国が来ますように。御国を来たせたまえ。御心の天になるごとく、地にも行かせたまえ。」(マタイ6:10)。(マタイ6:10)。その時の祝福の水路は、神の宮から流れ出る川に関連している。預言者ゼカリヤは、その水のユニークな質を特定した！"その日、いのちを与える水がエルサレムから流れ出し、半分は死海に向かって、半分は地中海に向かって、夏も冬も絶え間なく流れる。主は全

地の王となる。その日、主はひとりであり、その御名だけが礼拝される。"ゼカリヤ14:8,9

今日のレッスンの選択聖句は、川の成長を描いている。エゼキエルは、その川が最初に神殿から流れてきたとき、水源から千キュビトの地点で、自分のくるぶしまで流れてきたと記している。さらに千キュビト下流に進むと、水は彼の膝まで来た。さらに千キュビト進むと、水は彼の腰まで来た。四千キュビトで、水の洪水は川となり、エゼキエルは渡ることができなかった。川はとても深く、泳がなければ渡れないほどであった。これは、神の栄光の王国が徐々に、しかし容赦なく地を満たしていくという私たちの理解とよく一致する。その結果は印象的なものとなるだろう。「水が海をおおうように、地は主を知る知識で満たされるからである。イザヤ11:9

エゼキエルには、この経験の間、神から任命されたガイドがいた。(エゼキエル40:2-4)。目で見、耳で聞き、私があなたに示すすべてのことに心を留めなさい。あなたがたは、わたしがそれらをあなたがたに示すために、ここに連れて来られたのである。(4節)。エゼキエルに語りかけた者は、水の幻の後、興味深い質問をした。「人の子よ、これを見たか」(エゼキエル47:6)。この幻の重要性が預言者に、そしてその後、私たちにも強調された。

それが達成されると、エゼキエルは川のほとりに連れて行かれた。この水は東方に向かって流れ、谷を下り、海に入る。海に達すると、その水は癒される。そして、川がどこへ流れようとも、動くすべての生き物が生きるようになる"続いて、キー・ヴァースの言葉がある。(エゼキエル47:8,9,12)。使徒ヨハネに与えられた黙示録は、エゼキエルの体験を確証している。「使徒ヨハネに与えられた黙示録は、エゼキエルの体験を確証している。その川は十二の実を結び、それぞれの木は毎月実を結ぶ。その木の葉は、諸国民のいやしのためであった」。(黙示録 22:1,2)。エゼキエルの幻は、今も私たちを鼓舞し続けている！

# 勇気を持ちなさい

**「主はあなたがたの心を強めてくださる。**

**詩篇31:24**

聖書は、主の民が信仰、希望、確信、信頼に満ちた者となるよう勧めている。世界に目を向けると、そうあるべき特別な理由が見えてくる。世の中の大多数の人々は、恐れ、不安、不信、心配に満ちている。そのため、人生のチャンスを最大限に生かすことができない。彼らは、さまざまな方向に罪やトラブルの落とし穴があるので、不信感を抱き、恐れる理由があるのだ。

しかし、真のクリスチャンは神と特別な関係にあり、神もクリスチャンと特別な関係にある。神と関係を持たなければ経験できなかったことである。それゆえ、彼らは神に期待し、信頼しなければならない。彼が言ったことに耳を傾け、自分たちの経験はすべて彼の監督下にあると考え、勇気を持つことである。第二コリント4:15-17

神の民は、世から一歩踏み出し、主イエス・キリストの基準、すなわち、義、真理、聖さ、罪への対抗の基準に加わった。彼らは強大な敵に取り囲まれる。サタンは、神のすべての計画に反対してきたように、彼らに反対しようとする。サタンは主を直接攻撃することはできないが、主の計画と主を信じる者たちを攻撃することはできる。イエスと使徒たちの時代に暴動、騒乱、迫害を扇動したのはサタンであり、それ以来、主の民を圧迫してきたのもサタンである。 2コリント2:11; 11:14; 2テサロニケ2:7-10; 1ペテロ5:8,9

サタンは、自分の個人的な手によってではなく、惑わされたしもべたちを通して、これらのことを行った。(2テサロニケ2:11)。サタンは常に、義と義を愛するすべての人々に反対してきた。このため、クリスチャンは大きな勇気を持つ必要がある。もし敵対者に勇気を打ちのめされるのを許すなら、彼はすぐに彼らを戦いから完全に退けさせてしまうかもしれないからだ。勇気を失って退却する兵士は、戦いではほとんど役に立たない。勇気を失う代わりに、私たちは地上の利益を父に委ね、現世において父が私たちを導いてくださり、"御心に従って召された者"である者たち（ ）のために、すべてを益として

覆してくださると父に信頼することである。ローマ  
8:28

敵対者のほかに、私たちには私たちに反対する世間一般の霊がいる。世はしばしば、私たちが特別な神の監督を受けていると考えるのは愚かなことだと考えるだろう。そのような霊は黙ってこう言うかもしれない、「神はすべての世界、何千もの天使、そして宇宙のすべてを造られた。神があなたに特別な関心を持っていると思いますか？もし神がいるとすれば、神はとても偉大で、私たちはとても小さい。こうして私たちの信仰は打ちのめされるかもしれない。私たちは勇気を持ち、主を信じる必要がある。パウロはこう表現している：「私たちは、この世の霊ではなく、神の霊を受けたのです」。1コリント  
2:12

さらに、私たちには墮落した肉がある。私たち一人一人が、自分自身の内に、自分の肉体の内に、最も手ごわい敵を持っているのだ。(ローマ7:18,25)。聖書は、私たちが自らを主に委ね、主が私たちに聖霊を与えてくださったとき、私たちはそこで変容のプロセスを開始し、"キリストにあって"胚胎する新しい被造物となったことを表している。(ローマ12:1,2; 2コリント5:17)。この胎児のような新しい創造物、新しい心、意志、人格は、私たちが地上の

状態から天上の状態に移行する復活の瞬間、すなわち霊的誕生の瞬間まで、私たちの死すべき肉体の中で発達する。「それ（新しい創造物）は、腐敗の中に蒔かれ、腐敗の中によみがえる：それは不名誉のうちに蒔かれ、栄光のうちによみがえり、弱さのうちに蒔かれ、力のうちによみがえり、自然の体に蒔かれ、霊の体によみがえる。"第一コリント

**15:42-44**

とはいえ、私たちが肉体の中にいる間は、その墮落した傾向のすべてと戦わなければならない。ローマ**6:1,2,11,12**）。私たちは地上の利益と希望を、天上の利益と希望と交換したのだ。日々の経験によって、主は私たちを試されている。私たちは肉に打ち勝つために、常に警戒していなければならない。罪への傾向と戦うには、大きな勇気が必要だ。肉の弱さと虚弱さと戦い続け、肉に打ち勝つ一方で、主への犠牲と奉仕に従事することは、さらに勇気を必要とする。これらすべてには多くの勇気が必要であり、私たち自身では不十分なのだ。**2コリント3:5**、ピリピ**3:3**

私たちは主に信頼を置くように勧められ、「キリストが私たちを強くしてくださるので、すべてのことができる」と保証されている（ピリピ**4:13**）。（ピ

リピ4:13)。キリストの力だけが、私たちにとって十分な力なのだ。、最終的な勝利をもたらすためには、私たちのすべての勇気、すべての信仰と希望、つまり私たちが戦いに投入できるあらゆる有用な要素が必要となる。しかし主は、私たちが克服者となれるよう、十分な恵みを与えてくださる。(第2コリント12:9；ヘブル4:16)。これは、私たちの誰もが完璧な人生を送るという意味ではないし、常に良い勇気を十分に発揮できるという意味でもない。私たちは時々失敗するかもしれないが、私たちの愛する天の父は私たちを導いておられるのであり、私たちはその失敗から貴重な教訓を学ぶのである。

## さまざまな勇気

ある者は、より強い信仰と希望を持ち、心を完全に主に置いて、勇気をもって前進した。これは、強い勇気、正しい勇気という意味での「良い勇気」である。私たちの「主への希望」は、良い勇気、正しい勇気、神の勇気によって裏打ちされ、強くされるのだと、私たちはこのテキストから連想するかもしれない。

プライドから生まれる勇気もある：「引き下がるな。誰にも先を越されてはならない」。戦いでは、兵士たちは互いに競い合い、何か特別に目立つことを

して、指導者や仲間の喝采を浴びたいという願望を持つかもしれない。自分の命を失ったり、他の人間の命を奪ったりする危険を冒す勇気を与えるためには、彼らを奮い立たせる何か-おそらく名声への欲望-が必要なのだ。これは、勇気を鼓舞する動機としてはふさわしくないものではあるが、彼らの戦いで勝利を得るのに役立つと思われる種類の勇気である。

しかし、主への信仰と信頼に基づく正しい原則からの勇気は、うぬぼれや自慢ではなく、気高く、神に喜ばれるものである。その源は、神が約束されたこと、すなわち、神が見ておられ、私たちが神の御国で御子とともに共同相続人となることを望んでおられることを悟ることにある。(ローマ8:17、黙示録3:21)。神は、私たちが忠実であることを証明するかどうか、徹底的に試しておられるのだ。この勇気は、常に正しい方法、つまり主の方法で物事を行うことでなければならない。

## **この励ましはあらゆる状況に適用される**

この正しい勇気の勧めは、私たちがどのような状況に置かれているかにかかわらず、人生のあらゆる局面で私たちに影響を与える。それは、権力や影響力

のある人に適用されるだろう。そのような人は、正しいこと、つまり主の御心と理解されることを行う勇気を持つべきである。そのような勇気は、私たちにこう言うだろう、「主の御心が何であれ、自分の義務を果たしなさい。たとえあなたの動機がしばしば誤解されるとしても、主に期待しなさい」と。私たちは、現世で報われるにせよ、　、やがて来るその人生で報われるにせよ、正しいことのために立ち向かう良い勇気を持つべきである。イスラエルを指導し始めたヨシュアに対する主の言葉を思い起こそう：「強く、勇気を持ちなさい。すべての律法に注意深く従いなさい、.....右にも左にもそれではならない。」ヨシュア記1:7

勇気を持ちなさいという勧めは、クリスチャンであるビジネスパーソンにも当てはまる。世俗の友は言うかもしれない。宣伝なんかできないよ。本当のことを言えば、人々はあなたを顧みず、嘘八百を並べ立てるところへ行くだろう」。もしクリスチャンがこのような忠告に従うなら、より大きな商売をすることはできても、人生の主要な事柄、すなわち正しい人格の育成と実践は失敗に終わるだろう。

同じことが、この世の状況や立場に関係なく、主の奉獻されたすべての人々にも当てはまる。それぞれが正しい原則を唱え、キリスト者としての品性を言

葉と行いで表現することに、臆病になったり恐れたりしてはならない。(ヨハネ3:21、ヤコブ1:22,25)  
。原則が危機に瀕している場合、私たちは自分の立場をとって、「私の考えはこうであり、こうである。私は自分の義務だと思ふことをすることで満足し、他人を強制したいとは思わない。このように、異なる考えを持つ人たちでさえ、その人が確信を持っており、それを正直かつ誠実に表現する勇気があることを知るだろう。ローマ12:17

## 信仰に比例する勇気

キリストに従うすべての人の人生には、試練や困難がある。正しい勇気は、神の子たち一人一人に発揮される機会がある。これこそ主が求めておられる勇気であり、克服者に見出されるべき勇気である。天の御国で居場所が与えられるのは、このような者たちだけなのだ。だから、本文の教訓はこうである：勇気を持ちなさい。これこそ、主への信仰を示す方法だからである。主を望み、主に忠誠を誓う者は、その忠誠心と信仰に比例して勇気を持つ。マタイ 9:29

このような勇気は、どのような状況においても私たちの味方となる。私たちの主は、ある時、弟子たち

に向かってこう言われた。...どのように話せばいい  
のか、何を話せばいいのか、思い悩むな。"(マタイ  
10:18,19)(マタイ10:18,19)。ここでは、こう考え  
られているようだ："権力者の前に引き出されても  
、心配することはない"。主の民は、どのような状  
況が起ころうとも、神への信仰と 信頼を持ち、人  
生のあらゆる経験において神の力に頼り、勇気をも  
って行動する。

神が言葉や知恵を与えてくださる方法は、状況によ  
って異なるかもしれない。他の人からの示唆かもしれ  
ないし、他の誰かの経験を聞くかもしれないし、  
特に役立つ聖句が心に浮かぶかもしれない。私たち  
の信頼は完全に主にあり、恐れることはないという  
ことだ。ヘブル13:6

主は、上に引用した言葉を弟子たち、つまり無学な  
者たちに向けて語られた。彼らが"統治者や王たち"  
の前に引き出されれば、当然、多くの不安を抱くだ  
ろう。彼らは何を言うべきか。学識のある偉い人た  
ちにどう答えればいいのかだろうか？弟子たちは非常  
に謙遜で、自分の無知を自覚していた。しかし、主は  
彼らを導いてくださった。今日では、事実上すべての  
人がある程度の教育を受けている。それでも、主の  
保証は、弟子たちにそうであったように、今の私  
たちにも当てはまるだろう。

もし私たちが窮地に陥ったり、困難な状況に陥ったりしたなら、聖書がこう保証していることを思い出すべきである。(詩篇34:7)。このように考えることで、私たちは心を落ち着かせ、冷静になり、主と密接な関係にあることを知りながら、勇気をもって行動できるようになるはずだ。こうして私たちは、主に全幅の信頼を寄せることができる。さらに、私たちは、一つひとつの経験において、私たちに関する神の目的が何であるかを完全に理解できるほど賢くはないことに気づくだろう。それゆえ、私たちは、主がこの問題やあの問題において、どのように覆されるかを知らないのである。

## **"信仰は主を堅く信じることができる"**

初期の弟子たちは、イエスがご自身について予言されたことを思い、考え込んでいた。ペテロは確信をもってイエスに言った。"あなたはキリスト、生ける神の子です!" (マタイ16:16)。(マタイ16:16)。彼らは思ったに違いない：神が彼に危害を加えることを許すはずがない。弟子たちは、キリストが語ったこれらのことは単なる言葉のあやに違いないと結論づけた。(ヨハネ6:53-56)。だから今、彼が「人の子は.....十字架につけられる」と言ったとき

、彼らはそれが理解できない彼の独特の言葉の一つだと思った。マタイ26:2

それゆえ、イエスが逮捕され、ユダヤのサンヒドリンの前に連れて行かれたとき、弟子たちはかなり動揺し、不思議に思い、驚いた。それから、彼らの師はピラトの前に連れて行かれた。弟子たちは、イエスはローマの総督の前ではきっとためらわないだろうと思った！それゆえ、弟子たちは、自分たちが予想していたこととはまったく逆の展開になったとき、再び驚き仰天したのである。というのも、贖いの代価である完全な人間の命は、"すべての人の身代金"として提供されなければならないからである。1テモテ2:5,6; 1コリント15:22; ローマ5:18

もし神の知恵によって、私たちの師に対してなされたように、私たちを打ちのめし、辱めることが最善であるならば、私たちは勇気を持たなければならない。なぜなら、私たちは神を信頼し、神が私たちの経験を支配してくださることを確信しているからである。私たちは、主があまりにも賢明な方であり、それがどのようなものであれ、許可には動機と理由があるはずだと知っている。私たちは、聖なる者は主の目に尊く、特別に大切にされていることを確信している。詩篇17:8

どのようなことが私たちにもたらされようとも、その理由を見分けることができようと思えまいと、私たちはそれを主からのものとして受け入れなければならない。たとえ道が険しくても、期待とは正反対のように見えても、信仰と希望を持つことだ。「主を待ち望め。勇気を持てば、主はあなたがたの心を強めてくださる。詩篇27:14